

# 県士会 ニュース

No.227

[2024.6]



Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

## TOPIC

### 保険情報コーナー

令和6年6月 診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬同時(トリプル)改定について ..... P.3

|  |      |
|--|------|
| 巻頭言 .....                                  | P. 1 |
| News letter .....                          | P. 2 |
| 生活行為向上マネジメント (MTDLP)<br>推進委員会からのお知らせ ..... | P. 3 |
| 地域リハビリテーション部活動報告 .....                     | P. 4 |
| 各部からの報告 .....                              | P. 5 |

|   |      |
|---|------|
| 令和6年石川県能登半島地震 [OTとして]<br>災害ボラ活動に参加 (報告) ..... | P. 6 |
| 理事会議事録 .....                                  | P. 7 |
| 絵本でみる作業療法 .....                               | P. 8 |
| 事務局からのお願い .....                               | P. 8 |
| 編集後記 .....                                    | P. 8 |

## 巻頭言

### 重要

※たいへん重要な内容であるため、必ず、ご一読下さい。

★令和6年4月 当士会が神奈川県と基本協定を結びました。

### ●「神奈川DWAT (神奈川県災害派遣福祉チーム) の派遣に関する基本協定」を締結 (災害福祉)

制度対策部 災害対策班 担当理事 澤口 勇

#### 【かながわ災害福祉広域支援ネットワークに参画】

災害時、大方の市民は「指定緊急避難場所」に避難します。公民館や学校体育館などです。しかし、会員の皆さんが普段の臨床現場で支え接している障害者や高齢者の方々は果たして単独で避難できるでしょうか。避難所でも安全に過ごすことができるでしょうか？この想像は容易いでしょう。一人ではまず無理です。では、誰が手を差し伸べるのでしょうか？このように災害時、被災市町村では福祉的支援の調整が困難となることが予想されます。そこで神奈川県では大規模災害の発生に備え、社会福祉協議会や社会福祉施設等関係団体などと協働し、大規模災害時における高齢者や障害者など、特に配慮を要する者(要配慮者)を支援するため、平成28年4月熊本地震の後、平成28年7月に「かながわ災害福祉広域支援ネットワーク」が構築されました。そのネットワーク構成団体にこの度、令和6年4月から(一社)神奈川県作業療法士会も職能団体として加入致しました。

#### 【神奈川 DWAT 締結】

大規模災害においては、高齢者、障害者、子ども等の災害時要配慮者が、長期の避難生活を余儀なくされ、必要な支援が行われない結果、体調の悪化や介護度の重度化、さらには災害関連死といった二次被害の発生が指摘されており、避難生活における福祉ニーズへの対応が求められます。

こうした中、国では、平成30年5月に「災害時の福祉支援体制の整備に向けたガイドライン」が発出され、各都道府県において、災害福祉支援ネットワークの構築と災害派遣福祉チームの組成について示されました。

神奈川県では、すでに設置していた、かながわ災害福祉広域支援ネットワーク構成団体の協力の下、令和2年度より「神奈川災害派遣福

祉チーム (神奈川 DWAT)」が設置されたのですが、この度、(一社)神奈川県作業療法士会も「災害派遣福祉チームの派遣に関する基本協定」を神奈川県と締結致しました。

#### 【DWAT とは】

大規模災害時に、一般避難所等における災害時要配慮者の福祉ニーズに的確に対応し、その避難生活中における生活機能の低下等の防止を図りつつ、一日でも早く安定的な日常生活へと移行できるよう、必要な支援を行う福祉専門職等で構成するチームです。

#### ・ここで、ワンポイント・アドバイス！

# JRAT と DWAT との違い: JRAT (Japan disaster Rehabilitation Assistance Team) は、日本災害リハビリテーション支援協会の略称。本チームは災害時にリハビリの観点から避難所などで活躍し、被災者の生活不活発病や災害関連死を予防することを目的としており、(一社)日本作業療法士協会が団体加盟している。一方、DWAT (Disaster Welfare Assistance Team) は、災害福祉支援チームと言い、災害時の要配慮者支援を担当するチームを指す。避難所における環境の違いなどによって不活発になる障害者のために、生活環境の改善や工夫を行い、適切な支援を提供する。簡潔に言えば、JRATは避難者のリハビリテーションに特化したチームであり、DWATはその中でも障害者支援に特化したチームである。

#### ◆会員の皆様へお願い

神奈川 DWAT は避難所等で福祉支援を行う官民協働の都道府県オフィシャルチームです。神奈川 DWAT 派遣実績としては今年の2月、石川県能登半島地震の発災に際し、実際に金沢市へ神奈川県として派遣されました。そこで会員の皆様にぜひお願いです。我こそは「神奈川 DWAT チーム員」へのチーム員候補者登録を呼びかけたいと思います。神奈川 DWAT チーム員になるには、県が主催する「神奈川 DWAT 登録研修」の受講が必須ですが、その受講対象者の推薦を各ネットワーク構成団体で取りまとめて行います。県内に在籍在住する作業療法士の方の受講受付窓口は(一社)神奈川県作業療法士会となります。県士会として貴様をチーム員候補者として県へ推薦致します。「神奈川 DWAT 登録研修」及びチーム員候補者の受付方法の詳細につきましては、後日、制度対策部災害対策班よりご案内させて頂きます。県士会 HP をご参照下さい。

ご協力の程、よろしくお願い致します。

# News letter

一般社団法人 日本作業療法士協会

地域社会振興部 地域事業支援課 地域包括ケア推進班主催

## 2023年度 第3回地域事業支援会議

### 作業療法士は地域共生社会を理念で終わらせない

今年度開催3回目かつ、2023年度を締めくくる第3回地域事業支援会議は、2024年3月3日(日)午前中にオンラインで開催されました。全国から選任者が73名、聴講者56名、班員等が25名の計154名の方が参加されました。当士会からは、神保会長、佐藤隼理事ら、5名が参加しました。まず初めに山本伸一会長よりご挨拶があり、「地域リハビリテーションの一端を担う今事業は、重要な位置づけとして押し進めていきます。本日の会議を得て、各地域の各都道府県の情報共有、皆さまのご理解も頂きながら進めていきたいと考えております」とのお言葉があり、会員の現場や地域の臨床が生き活きと輝くことにエールを頂きました。続いて、佐藤理事から「総合事業の在り方」について、自立支援・介護予防が必要となる背景や理念の再確認を頂き、総合事業の充実に向けた検討会の中間報告とこれから作業療法士が取り組んでいかないといけないビジョンについてお話し頂きました。



そして今回は、市町村担当配置事業における全国の取り組みの中から3士会に事例報告をしていただいたから、各グループに分かれて積極的に意見交換が行なわれました。

### 班員からの事業報告、3士会からの取り組み事例報告

地域共生社会5か年戦略・重点活動項目の中から、今回は「地域づくりに資する作業療法参画モデル事業」「市町村担当者配置事業」「地域事業参画推進のための士会マネジメント事業」について、そして「OT参画実態調査」についての報告がありました。実施したアンケートの結果については、改めて各士会にもご報告が予定されているとのことでした。また、三浦班長から市町村担当者配置の目的と方法について再確認のため共有していただくとともに、事業推進のためのツールとして「配置のカatalog」活用についての説明がありました。

市町村担当配置状況や他機関との連動の方法などの取り組みについて、全国の取り組みの中から今回は3士会(兵庫県士会、茨城県士会、山形県士会)から報告がありました。具体的な内容としては、各士会から地域特性の紹介、現在の地域支援参画状況、OTの参画・派遣の体制に3団体や支援センター等がどのように関与しているか、市町村担当者をどのように配置したか、市町村に配置する上での課題と解決策について報告がありました。

### グループワークを開催 テーマ：市町村配置の振り返りと意見交換

会議の後半は、市町村配置の振り返りと意見交換をテーマにグループワークを行いました。内容の一部を紹介させていただきます。

|  |  |
|--|--|
| <p><b>1. 市町村担当者配置についての工夫点や課題</b></p> <p>「日本中の隅々まで作業療法を」届けるための市町村配置の方法(配置カATALOGステップ①:主体)について、各士会での上手くいっている点、工夫している点、現状の課題について共有を行いました。</p> <p>グループワークの中でも、主体や配置割合、また配置した後の内容についても地域によって様々でした。報告のあった3事例を含めて、各士会での取り組みや課題についても参考になる機会になりました。</p> | <p><b>2. 市町村事業における各士会での体制</b></p> <p>市町村事業を実施している中で、各士会での体制について意見交換を行いました。</p> <p>参加したグループでは、主体は県士会独自で市町村配置している所が多くありました。また、配置するのにも人材育成をどのように行っていくか、課題についても共有することができました。</p> |
|--|--|

当士会の現状としては、県全域担当、横浜市担当、川崎市担当、相模原市担当の4名を窓口を配置しています。今年度はさらに窓口担当を増やす計画を立てています。地域リハビリテーション部を中心に会員全員とOT協会が地域共生社会5か年戦略に上げている約1700市町村配置の目標に沿って神奈川県33市町村への配置を目標に行っていきます。皆さんと一緒に進めていければと思っています。

(文責：遠藤 陵晃)

## 生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進委員会からのお知らせ ～ MTDLPいち推し～

新年度が始まり、桜やチューリップから紫陽花を迎えています。梅雨の雨も潤いを与えてくれる頃です。今号をお読みいただくときには今年度の神奈川県作業療法士会総会も終了し、事業計画等が審議、承認され、多くの事業の動きが始まっていることでしょうか。新たな提案が多々ありますので、ぜひとも総会議事録をご確認ください。

さて、本 MTDLP 推進委員会に関してもですが、今年度も「MTDLP の視点に立つ」研修会や MTDLP の推進を計画しています。「MTDLP の視点に立つ」ということは、「作業の視点に立つ」ということで、そのままよりよい作業療法実践を目指すことを示しています。MTDLP は、特別な視点ではなく作業療法そのものだと OT 協会は考えています。県士会でも同様に考え、よりよい作業療法実践を目指す一つの手段として MTDLP を推進していきます。

今年度も MTDLP 基礎研修（生涯教育制度必須研修で認定作業療法士取得には受講が必要）2 回と事例検討会（実践者になるには事例報告が必須）を数回計画しています。基礎研修は、今年度対面にて開催予定で検討しています。これまでオンラインにて開催してきた、グループワーク（演習）は対面

で実施した方が理解も深まると考えました。また事例検討会はオンラインで開催予定です。隔月くらいに開催し、平日夜間開催やご都合が合わない方には個別で開催してもよいと考えています。皆さんの参加への便宜を図ることを優先的に考えています。また、本士会では発表申し込み者に MTDLP 事例報告登録制度（協会制度）の登録用ファイルを予め提出いただき、講師（MTDLP 指導者）が確認、添削してお返しし、修正いただいた上で当日に臨んでいただく手厚い対応を実施しています。これはより MTDLP の視点に立つ、事例報告登録を見越した指導も視野に入れていきます。またこの研修会は、発表者だけのものではなく、「どんな発表なの?」、「MTDLP ってどんなものなの?」を解決するための聴講だけの参加も推奨しています。

研修会開催情報は、県士会ウェブサイトに掲載しますので、ぜひともお申し込みください。

また、次号では昨年度末に実施しました MTDLP に関するアンケート結果をお知らせする予定です。アンケートへのご回答にご協力をありがとうございました。（文責：生活行為向上マネジメント推進委員会 奥原 孝幸）

## 保険情報コーナー 第5回目

### 令和6年6月 診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬同時(トリプル)改定について ～でも本当の主役は第8次医療計画・2025年問題～

制度対策部 澤口 勇

県士会会員の皆さん、こんにちは。制度対策部です。

本コーナーでは「作業療法士に関わる諸制度（法律）」も含め、皆様のお役に立つ法令などの情報提供に努めております。

令和6年6月は「トリプル改定（診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の3つが同時に改定）」です。以下、そのポイントをお伝えしますが、なぜこれほどまでに改定するのか、その鍵は2025年問題とそれに基づく第8次医療計画です。まずそのことからお話します。

○2025年問題（地域包括ケアシステムの開始年ですが…）

団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年（令和7年）以降は、2040年までをピークとし国民の医療や介護の需要がさらに増加することがすでに見込まれています。ところがそれに比例して少子高齢化に伴い「労働人口」は将来減っていきます。すると人材確保や財政も厳しくなります。よって市民や当事者、そして支援者もより自分の生活や健康を維持することが困難になった時には、それぞれで「自助・互助・共助」を行い、残り少なくなった社会資源による公助はより支援が届かない手薄なところに限定してサービスを配分するほかない、ということになります。それを2025年問題と言います。だから国は「地域包括ケアシステム」と名付け、2025年を目途に、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築をさらに推し進めよう、と支援者に対しスローガンを掲げています。気づいたらもう、来年度です！

○第8次医療計画

医療計画とは「地域の実情に応じて医療提供体制の確保を図るために策定される計画」で、具体的には医療機関や疾病・事業の分布、医療の質を調査し、医療の目標や措置を定めるものです。また2018年からは「地域医療構想（開始は令和7年度）」を策定し、地域の医療体制を効率化・体系化するための取り組みも進めています。これも根底には2025年問題があると個人的には思っています。つまり「将来は労働人材が減る。しかし2040年に向けて介護需要は高まり続ける。だから今から病床の整理を始め、医療サービスの効率化を」という具合です。

実は取り組むべき疾病の主も、昭和の高度経済成長前後の頃の日本において、1951年から1980年まで、日本人の死因第1位は「脳卒中」でした。だから医療計画では「脳卒中」への対応が主眼となり、そしてリハビリも、その時代の後押しを受けて広がった、とも言えるでしょう。ところが今の時代、日本人の3大死因は「がん・心疾患・老衰」で脳卒中は4位となりました。受療率においては「高血圧疾患」「精神疾患」などが高くなりました。

2024年より6年間は第8次医療計画の期となりますが、こういった疾病のニーズ変化や生産年齢人口の減少に対応するため、5疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）・6事業（救急医療、災害時における医療、新興感染症発生・まん延時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療）及び在宅医療などの医療体制が提供できるよう、人

材確保のための方策、病院・病床機能の再編、DX化の推進による効率的な医療提供体制の構築などが計画されております。我々も注視しましょう。

○どこにも書かれていない、トリプル改定のポイント

前振りりが長くなりましたが、もうこれでお分かりになりましたでしょうか。だから今回、「2025年問題」や「地域医療構想の開始年」など来年が節目となるその前年に当たる2024年の改定、しかもトリプル同時改定（トリプルになったのは偶然です）に、国は躍起となるわけです。将来に備え「国民の皆さんはご自分で動けるうちに今から老後に備えて欲しい。行政にもう財源はない」とも言いたいのかもしれません。

\*減っていく労働人材は、全世代・全領域を連携でカバーしていく「リハビリ・栄養・口腔だけではもの足りない。活動と参加も提唱しよう」

今回のトリプル改定では、労働人材確保の視点から、まずは医療従事者の「賃金上昇」で対応、そして「自助、互助、共助」を推進するために全世代社会保障の実現をうたい、医療・介護・障害福祉サービスの各連携を強化し、減っていく社会資源（公助）を国民全体で補助していくことがポイントとなっています。連携には人・各施設間・行政機関・地域・インフォーマルなども含まれます。シームレスな連携は患者や支援者、双方にメリットがあります。社会復帰に到達するまでの期間がより短くなるでしょう。

\*質の評価：疾患別リハ、職種ごとに点数化／精神病棟でDPCデータの提出が必須

疾患別リハではこれまで職種ごとに差異がなく同じ点数であったが、今回の改定から職種ごとにまず区分された（ただし、今回は職種毎に同点数）。よって2年後の診療報酬改定までの間、厚労省はNDB・DPCデータを蓄積する。そして得られた結果で次回の点数が決まるでしょう。職種毎に差異が出るのか、厚労省はどのように我々を分析し判断するのか注目したい。個人的な意見ですが、リハは必ずしも単職種で関われば治療の効果が上がるというわけではない。誤解を与えないようにしっかりと我々はOTを説明していく必要があると思います。

精神医療でも質が問われます。今回の改正で初めて「精神病棟入院基本料」「精神科急性期治療病棟入院料」「児童・思春期精神科入院医療管理料」を医療機関が算定する場合、DPCデータの提出が必須となりました。精神科における項目の新設としてはまず「退院に向けた会議の開催状況」があり、当該患者が入院中に行われた退院支援に関する会議の回数や参加職種などを入力します。また「個別支援の実施状況」も新設され「個別作業療法の実施回数」を入力することになりました。医事課より今後問い合わせがあった時にすぐに答えられるよう作業療法部門での体制づくりと、退院カンファへの参加、個別作業療法を着実に実施していき、OTの存在をアピールしていく必要があるでしょう。

2年後の改正に向けて、我々OTは生き残れるのか。以上、どこにも書かれていないポイントをお伝えしました！

## ◎ 地域リハビリテーション部活動報告

地域リハビリテーション部では、こども班、難病リハ班、精神保健福祉班、地域支援事業班などがあり、各班の活動について報告を行っていきます。

昨今、地域で作業療法士を求められる場面が出てきています。県士会ニュースを通して、地域・在宅で活躍する作業療法士に関わる情報や講習会をお知らせをしていきます。また行政からの情報、多職種との企画、作業療法士間の交流や地域でのネットワークを構築する企画などがありましたら紹介していきたいと思っております。

地域リハビリテーションに関わる情報を発信していければと思いますので、会員の皆様からも地域事業に関わることがありましたら県士会の方へ連絡を頂ければと思います。引き続き、地域リハビリテーション部をよろしくお願い致します。

### 発達領域に関わるOTの意見交換・交流会

こんにちは、地域リハビリテーション部こども班です。3月11日に「発達領域に関わるOTの意見交換・交流会」と題し、オンラインでの交流会を開催いたしました。当日は22名の方々にご参加いただきました。部員から3つのテーマを共有した後で、4つのグループに分かれて今の現場での役割についてや、日々の現場で困っていることを情報共有しました。

発達領域では一人職場の所も多いため、このように他の職場のOTと交流できる機会は貴重な場であると感じました。短い時間の中でしたので、今後はもう少し時間にゆとりをもって皆様との交流を深めていければと思います。

地域リハビリテーション部こども班は2023年度より発足し、今回が第一回目の交流会となりましたが、研修会だけでなく交流会という形に意義を見出すことができた、貴重な機会とすることができました。今回ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



こども班は、今後も様々な企画を検討していければと思いますので、ご興味のある方はぜひご参加いただけますと幸いです。これからも、皆様と発達領域の地域OTを盛り上げていけるよう努めてまいります。

(文責：地域リハ部こども班 鎌田 崇寛)

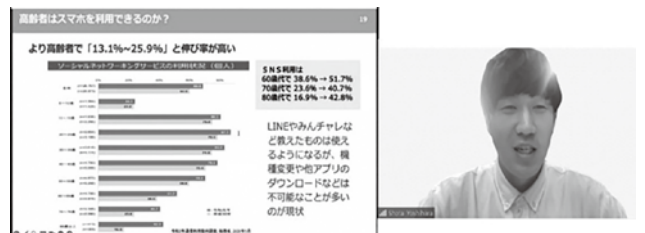
### アプリケーションで習慣化 ～目標達成に向けて地域で繋がるコミュニティ～

2024年2月27日19時30分より2023年度第2回地域ミーティングが実施されました。平日の夜の時間帯でオンラインにて参加者69名のもと開催しました。今回は「アプリケーションで習慣化、目標達成に向けて地域で繋がるコミュニティ」と題し、北里大学大学院医療系研究科に所属されている吉原翔太先生にご講義していただきました。

講義内では社会参加している人は要介護になるリスクが低いという統計データがあり、社会参加へ繋げるきっかけを作る方法として、また施設を卒業した利用者様が自宅でも良くなった身体機能を維持させていくために、アプリケーションの活用を実施していました。そこで活用について作業療法士がどのように関わっているかをご紹介します。

吉原先生が行っていた活動例としては、アプリケーションによりグループの交流、利用者同士で励ますことや楽しむこと、また主体性を守りながら社会参加を図っていく内容でした。趣味で活動している人はグループで実施している方が認知症になりにくい、また一人より複数で行う方が活動の継続率が高いとも統計データにありました。その点、アプリケーションはグループ活動としても取り掛かりやすいと感じました。

ご講義の後に佐藤隼理事と札幌野班長が入りシンポジウムを行いました。質疑応答では、利用する物はスマホという皆様の身近な物であり、参加された皆様が大変興味を持ち、多くの質問が上がり盛り上がった会議となりました。人の生活において楽しみという意味や、1人1人のニーズを大事にしていきたいとする様子が伺えた素晴らしいミーティングとなりました。



(文責：地域リハ部地域支援事業班 赤羽 竜馬)

# 各部からの報告

## ▶ 学術部

### 就労支援についてオンライン研修を開催！

(文責：林 慎也)

1月21日に学術部主催で横浜市総合リハビリテーションセンターの西則彦先生より「就労支援の進めかた 一復職の支援を中心に」と題してオンライン研修を行いました。参加者は、東北、関東、近畿、九州から約40名が参加してくださいました。

重要なポイントの1つに、高次脳機能障害が重度であれば「職務再設計」が重要であり、会社の対応力にばらつきがあるものの、障害像や代償、得意なことなどを丁寧に一般職の方がわかりやすい言葉で情報提供が有効であることを教えていただきました。

事例紹介では、右片麻痺、失語により表出が困難な方が建築関係の仕事に復職できた例や、片麻痺により装具を使用した方が営業職から業種を変更して復職できた例など具体的に紹介していただき、復職の流れをイメージすることができました。

多忙の中、講師を引き受けてくださった西先生に感謝いたします。

- **何が、どのように、苦手なのか。**
- 「注意障害がある」では説明したことにならない。
- とにかく分かりやすく！以下、一例です。

今回のご病気の後遺症で、ケアレスミスが、人よりも少し多いかもしれません。特に表のように情報が多いものでは、なおさらその傾向が強まります。そのため、マーカーで色をつけたり、定規などで、情報を隠したりといった工夫で、正確にできる確率が高まります。しかし、ミスを完全には防げないとも思いますので、特に最初のうちは、どなたかにダブルチェックをお願いしたいのです…。

### スプリント実践セミナーを酒井医療本社にて開催！

(文責：林 慎也)

2月18日に学術部主催で相模原協同病院の成田大地先生と北里大学病院の佐々木秀一先生より、「スプリント実践セミナー - コックアップスプリントとサムスパイカを作製しよう -」と題して研修会を行いました。今回、酒井医療株式会社様のご協力により、酒井医療本社にて24名満席で全員が講師の助言のもと、1人あたりコックアップスプリントを2つ、サムスパイカ1つを作製することができました。講師が作製する際は動画撮影したり、作製時に講師や助手、酒井医療の方々丁寧な助言ができる環境にすることで、その後のアンケートでは、「動画撮影ができた、作製時に丁寧に教えてもらったことで、すぐに実践できそうです」と回答をいただきました。このように、今後もすぐに実践できる研修を企画して参りますので、ご参加いただけましたら幸いです。



### SCITについてスキルアップ研修会を行いました！

(文責：上沼 早慧)

2月25日に、作業療法士・公認心理師でONE MORE 代表の芳賀大輔先生に講師をお願いし、「SCIT(社会認知および対人関係のトレーニング) 認知リハを学ぼう」と題してオンライン研修会を行いました。北海道から沖縄まで全国から70名近くの方にご参加いただきました。

先生には、まず、認知機能障害やそれに伴う日常生活の困難さについて丁寧に説明いただき、知識の再確認や理解を深めることができました。

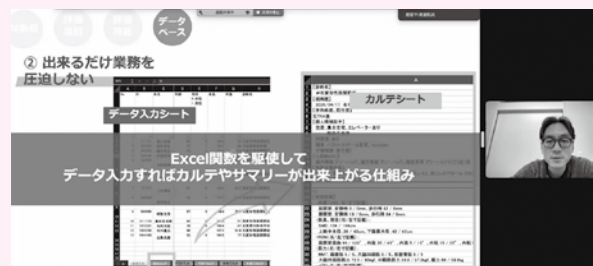
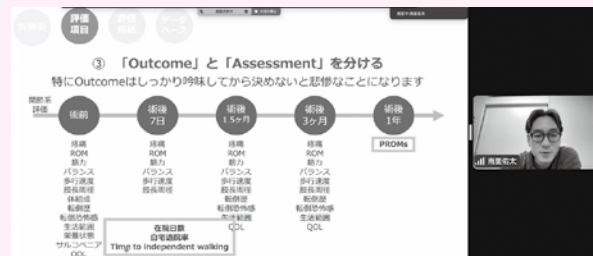
結論の飛躍を防ぐことを最大の目的としたSCITは、「感情を理解する」「状況を把握する」「生活に活かす」の3段階で行われ、研究では情動認知や心の理論、社会スキル等の改善・向上が認められているとされています。本研修では、映像やイラストを用いた演習を通して、そのエッセンスを学習することができました。参加者の満足度も高く、臨床に活かしたいという感想が多く聞かれました。

ご多忙の中、講師を引き受けてくださった芳賀先生に感謝申し上げます。

### 能登半島地震チャリティー研修会を開催！

(文責：林 慎也)

3月8日に北里大学病院の南里佑太先生より、「研究のはじめの一步 (第4弾) - 忙しい臨床の中でデータを測定し蓄積する方法」と題して研修会を行いました。参加者は、北海道から鹿児島までPTを含む100名以上が参加されました。研修では、データ収集を開始するにあたり、評価項目だけでなく何をテーマにデータ収集するのか、院内向けの報告なのか、国内学術誌に報告するのか、海外学術誌に報告するのか、これらの目的に応じてアウトカムをどう設定するのかを教えていただきました。また、忙しい臨床のなか、院内のチームで協力してデータ収集を行うために、エクセルを活用する方法や、研究データを記録、サマリーに転記できる工夫を具体的に提示していただき、とても参考になりました。今回は、講師謝金、参加費の全額を義援金として寄付させていただきました。参加された皆様、本当にありがとうございました。



## ▶ウェブサイト管理委員会 県士会ブログ紹介

(文責：ウェブサイト管理委員会 佐藤 範明)

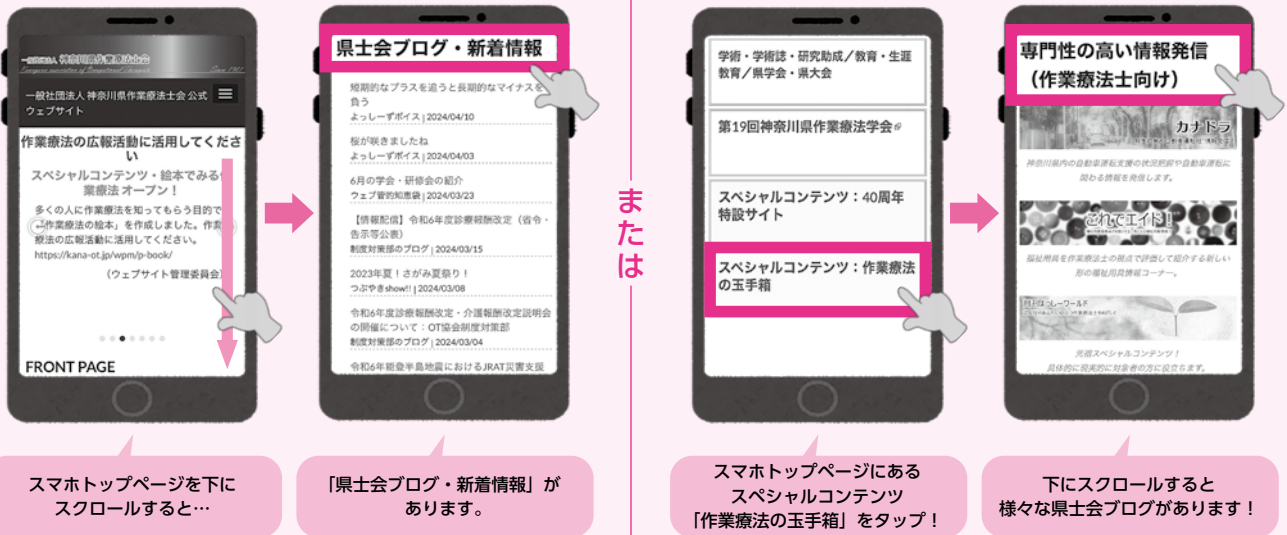
県士会サイトでは様々なコンテンツが存在しています。本日はその中から「県士会ブログ」を紹介いたします。

県士会ウェブサイトでは、ウェブサイト管理委員会が企画・管理・運営しているコンテンツの他に、制度対策部をはじめとした様々な部・委員・個人がブログにて貴重な情報を発信・

掲載しております。

ブログの新着情報は一目で確認することもできますので、まだ見たことのない方は、ぜひ一度、覗いてみてください。あなたが求めている情報がきっと載っていますよ。

【図】【県士会ブログ】閲覧方法（スマホ Ver.）



## 令和6年石川県能登半島地震「OTとして」 災害ボラ活動に参加（報告）

～JRAT 中央対策本部（東京） 後方支援（ロジスティクス要員）～

災害対策班 西 則彦（横浜市総合リハビリテーションセンター）

OT協会の災害ボランティア登録者として今年の2月、OTとしてJRATの災害支援活動に参加して参りましたので、その時の模様をご報告致します。

災害支援というと、多くの方は現地での支援をイメージすることと思います。しかし、その災害支援をする上では、支援者（実働の支援部隊）の調整がとても重要になります。その調整などを行っているのが、後方支援の本部機能でロジスティクスと呼んでいます。

JRAT本部ロジスティクスは東京のビルの一室にあり、6～8人ほどのスタッフが毎日交代で詰めています。そのうちの一人は医師、それ以外はPT・OT・STです。

この時期のロジスティクスでは、主に、マッチングの調整、委嘱状の発行、起こったことや電話連絡などの記録（一般的に災害支援の現場でクロノロジーと呼びます）、などがありました。私は主に、クロノロジー

の作成を担当しました。クロノロジーは、起こったことや伝達したことを時系列にまとめる必要があります。いつもの臨床業務で使う脳とは別の働きが要求され、大変ではありつつも有意義に活動することができました。



JRAT 中央対策本部（東京） ロジスティクスの様子

※写真の左側にあるのは、支援隊の調整が済んだものを記載しているもので、ホワイトボードのような機能を持つシートです。取り外しもできて便利です。

# 理事会議事録

## ★ 2023年度 第5回理事会 議事録 2023.12.22

日 時：2023年12月22日（金）19：00～21：20  
開催方式：ハイブリッド開催（現地+オンライン）  
場 所：現地）神奈川県横浜市中区真砂町 3-33 商業ビル「セルテ」8階 801 会議室  
出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、吉本雅一（副会長）、  
玖島弘規（事務局長）、奥原孝幸、望月強併、遠藤陵晃、青木啓一郎、佐々木秀一、澤口勇、神田崇央、神保洋平、金山桂、佐藤隼、佐藤範明  
出席監事：錠内広之  
欠席理事：山勢健太郎、野本義則  
欠席監事：野々垣睦美  
その他出席者：木村達（第6回臨床大会大会長）、兵頭夏海（事務局部員）、薄井文香（事務局部員）

### I. 会長より挨拶

今年最後の理事会となります。職域の拡大に向けて、診療報酬は年明けに審議が進んでいきます。2025年度問題に対して、道筋を作っていきたいと思っています。2月に神奈川県庁に行き、作業療法士がどういふところに必要なのかすり合わせをしに行きたいと思っています。職域を守るべくみなさんの意見を聞きながら進めていきたいと思っていますのでよろしく願います。

### II. トピックス 第6回神奈川県臨床作業療法大会 木村大会長挨拶

大会テーマ『コミュニケーション～再動×再考～』  
コンセプト：知覚・感情・思考の伝達から互いに影響し合う場・偶発的なコミュニケーションが取れる場  
セレンディビティ：発見・ひらめきを見つめられる場を作りたい。  
講演や研修だけでなく人とコミュニケーションがとれる場を設けたい。

### III. 審議事項

- 後援依頼（事務局）
  - 第21回神奈川県介護支援専門員研究大会への後援依頼  
→賛成多数で承認
  - 第29回日本在宅ケア学会学術集会への講演依頼  
→賛成多数で承認
- 部員申請（事務局）
  - 学術誌査読委員1名  
→賛成多数で承認
- 賛助会員A（事務局）
  - 他県士会への異動に伴う賛助会員Aへの申込1名  
→賛成多数で承認
- 部員公募制度について 継続議題（福利部）  
→賛成多数で承認
- Confit 導入について 継続議題（学会評議委員会）  
→賛成多数で承認

### IV. 2024年度事業計画・予算案について

2024年度事業計画を基にプレゼンテーションを実施。主要項目のみ記載。

#### 事務局

事業：理事会・三役会・総会の運営、会員情報の管理・整理、関係団体等に対する業務などを行う。

#### 財務部

事業：財務管理の検討、専門家（税理士、会計士）との連携を図る。

#### 学術部

事業：スキルアップ研修（全11回）、研究助成、学術誌刊行、研究倫理審査委員会設置などを行う。

#### 教育部

事業：生涯教育制度関連研修、臨床実習指導者講習会など事業内容は変更なし。

#### 広報部

事業：県士会ニュース発行・送付（ニュースを8ページで集約）、対外広報活動、小中高校生（未来のOT）むけの作業療法紹介・職業紹介広報部内における企画検討会議などを行う。

#### 福利部

事業：倫理問題に関する研修会（倫理問題の対応については倫理班での会議を検討中）、表彰関連（適正な表彰者の環境整備）、OTリーダー・役職・管理者向け研修/情報交換・交流会の企画（5年目交流会、イクメン交流会）などを予定。その他にも、養成校の卒業学年への入会案内を兼ねた神奈川県作業療法士会に関する説明会の開催、部員公募制度などを行う。

#### 地域リハビリテーション部

事業：地域リハビリテーション人材育成研修（年4回）、地域リハビリ関連事業、こどもミーティングなどを行う。

#### 制度対策部

事業：社会保障制度対策研修会やリハ手帳の普及啓発活動、福祉用具に関する研修会、自動車運転支援に関する研修会などを行う。組織改編の流れの中で、リーダー研修を行なってほしいとの依頼があった。

#### 規約委員会

事業：定款および規程集の管理、マニュアルの整備などを行う。

#### ウェブサイト管理委員会

事業：計画全体としては継続。ウェブサイトやXなどの運用方法も再度検討していく。

#### 学会評議委員会

事業：第20回神奈川県作業療法学会の実行委員会の運営サポート、第6回神奈川県臨床作業療法大会の実行委員会の運営サポート（基本的にはオンラインで行なっていく予定）、県学会および臨床大会の運営マニュアルの整備と内規の整備（学術部と連携）などを行う。

#### 選挙管理委員会

事業：代議員選挙や役員選挙の運営、実施などを行う。事業内容については継続。

#### 公益法人化対策委員会

事業：2023年度内にて当会が公益化するののかについて結論を出す。事業計画や予算についてはその決定によって変更していく。

#### MTDLP推進委員会

事業：MTDLP基礎研修（2回開催）、MTDLP事例報告会の開催（毎月開催）、広報推進活動などを行う。

#### 認知症対策委員会

事業：認知症アップデート研修会開催（ご本人と招く研修会は対面、認知思考力を高める研修会はオンラインで行う予定）

#### 地域包括ケア推進委員会

事業：横浜市への委託事業を予定。来年度から横浜市は介護予防を実施。今後、PT・OT・ST士会で事務局を作りながら実施していく話も出ている。

#### エリア化推進委員会

事業：事業の変更はなし。  
地域支援活動助成金事業は2事業から始めているが、このまま実績が確保できれば3事業に増やす予定。代議員ミーティングを実施予定。代議員同士の対面での交流を考えている。

### V. 報告事項（各部署・理事・三役）

#### 1. 学会評議委員会

- 第19回県学会報告・第20回県学会進捗報告について  
紙面にて報告

#### 2. 事務局

- 2024年度社員総会について  
1月から社員総会に向けた準備を開始。各部署議案書の作成を依頼していく。  
まずは社員総会までのスケジュールを作成し、配信する。
- 全国公益法人協会への問い合わせ方法について

#### 3. 財務部

- 中間監査 謝金支払について
- インボイス制度について  
当会はインボイス取得事業所ではないため、問い合わせがあった場合はその旨をお伝えする

#### 4. 教育部

- 生涯教育制度推進担当者会議について  
紙面にて報告

#### 【理事・三役】

##### 1. 田中理事

- 渉外報告「第3回協会長士会会長会議よんぱち（2023年11月25日実施）」  
紙面にて報告

#### 【その他報告部署・理事】

奥原理事：MTDLPの意識についてのアンケートを予定。

神保会長：会員モデルワーキングの会議2回実施。次回の理事会で進捗状況を伝えていく方向で動いている。

澤口理事：1月20日にPT士会・OT士会・ST士会で合同の災害に対する研修会を実施予定。障害者の避難をどうしていくか。DMAT、JRATにOTも参加していけたらと思う。

### VI. 監事より

ZOOMに関しては、メリットがあるため無くさない方向で予算の中で使用してもらいたい。

福利部での学校に行つて県士会の話をするのは、会員増員のためにも良いことかと思う。神奈川県士会だけでなく、他県士会に入って頂くよう進めていけたらと思う。

以上（事務局長 玖島 弘規）



第9回

## 絵本でみる作業療法

「貝になった画家」だけ原作・原案は他の作業療法士だった！

「絵本でみる作業療法」の「貝になった画家」は原作・原案が異なる作品である。これまでの作品は身体障害領域の話であったが、「貝になった画家」は精神科領域の話である。そのため、原作・原案を精神科で働く作業療法士に依頼した。作業療法の専門領域は多岐に渡るため作者が経験したことのない領域に関しては、その領域で活躍する作業療法士に原作・原案を依頼したいと考えている。自分の臨床経験を絵本にしたい方がいればぜひ連絡してほしい。

(文責：清水 拓人)

県士会サイトも是非みてね！  
<https://kana-ot.jp/wpm/p-book/>



### 貝になった画家

さくしみず たくと



### 事務局からの お願い

#### ●届出内容を変更される方

住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『登録内容の変更届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール (kaiin@kana-ot.jp) にてご提出願います。(随時受付)

### 編集 後記

新年度を迎え2カ月が過ぎ、働く環境が変わった方は少しずつ慣れてきたでしょうか？  
 6月は記事にもあった通り、診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬が改定され、携わる業務内容が変わってくることもあるかと思えます。私も気を付けて確認していきたいです。これから暑い季節になっていきますが、皆様どうぞご自愛ください！ (えり)

## 一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース 〈227号〉2024年6月発行(年4回発行)

発行責任者 神保 武則  
 編集責任者 金山 桂  
 編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)  
 山岡 光(湘南慶育病院)／佐藤 愛(悠の木株式会社)／丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院)  
 松井 洋鷹(淵野辺総合病院)／碓屋 瑛理(佐藤病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301 号  
 TEL/FAX：045-663-5997  
 月火水木金 10：00～15：00  
 メールアドレス：jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト  
<https://kana-ot.jp> → 作業療法 神奈川県 検索

Facebook <https://www.facebook.com/kaotwebkan>  
 Twitter <https://twitter.com/kaotwebkan>

